



## J:COM が「ケーブル技術ショー 2026」に出展

### 対話型 AI アバターや Wi-Fi 7 対応端末などの技術を紹介

JCOM 株式会社（J:COM、本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岩木 陽一）は、2026 年 7 月 23 日（木）・24 日（金）に開催された、ビジネスショー「ケーブル技術ショー 2026」に出展した。

本展示では、J:COM が提供する放送・通信サービスの枠を超え、地域課題の解決を支える新たな事業モデルについて、具体的な活用シーンや導入イメージを交えて紹介した。

J:COM は、法人向けブランド「J:COM BUSINESS」において、「地域とともに、一歩先のビジネスへ。」をコンセプトに、これまでのサービス提供を通じて蓄積した運用ノウハウを基に、ケーブルテレビ事業者の業務運営や地域課題の解決を支援するソリューションサービスを展開している。

「J:COM BUSINESS」ブースでは、幅広い分野のアウトソーシングサービスや、Wi-Fi 7 に対応した端末機器の展示、生成 AI を活用した音声対話型 AI アバター「デジタルヒューマン」をはじめ、2026 年 4 月に設立した R&D センターにおける中長期的な研究開発の取り組みなど、次世代技術もあわせて展示した。また、ブース内では各ソリューションへの理解へのミニセミナーも随時開催。

### ■「ケーブル技術ショー 2026」出展概要 ＜展示内容＞※予定アウトソース・ソリューション

ケーブルテレビ事業者における人材不足や業務高度化の課題に対応するため、J:COM のノウハウと技術力を活用した 5 つ

のアウトソーシングサービスを紹介。

#### 世界最速規格※ Wi-Fi 7 対応端末機器

ケーブルテレビ事業者向けの Wi-Fi 7 対応端末実機を展示。

本端末は、高速かつ高品質な通信性能と、WPA3 による高水準のセキュリティを実現している。さらに、AI で家庭内 Wi-Fi 環境を自動最適化する「Plume」を標準搭載することで Wi-Fi 7 のパフォーマンスを最大限に引き出すとともに、アプリケーションの優先制御や IoT 機器を含めた高度なセキュリティ管理が可能な Wi-Fi プラットフォームを紹介した。

#### 対話型 AI アバター「デジタルヒューマン」

次世代の顧客インターフェースとして、生成 AI を活用した対話型アバター「デジタルヒューマン」の研究開発を進めている。人と会話するような自然な対話を通じて、ニーズを引き出し、課題解決や最適な提案につなげる新しい顧客接点の実現を目指している。会場では、AI アバターとのリアルな対話を通じて、番組レコメンドのデモや操作体験を体感できる。

#### 通信設備管理サービス（Cable Manager）

ケーブルテレビ事業者の事業運営に不可欠な通信インフラの情報を一元管理し、障害発生時の迅速な復旧対応や代替ルート検討を支援する設備管理サービスです。安定した事業運営を支える基盤をご提案します。

#### J:COM の R&D センターの取り組み

2026 年 4 月に設

立した R&D センターにおける研究開発の取り組みをご紹介します。「ネットワーク運用の高度化」や「次世代 Wi-Fi 通信技術（Wi-Fi 8）の研究」など、中長期的な技術開発について展示した。

※ Wi-Fi 通信規格の理論上最大速度比。

### ◆ J:COM、R & D センターを設立 次世代通信の実現を見据え、Wi-Fi 8 の実証実験を開始

JCOM 株式会社（J:COM、本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岩木 陽一）は、中長期的な研究・技術開発を通じてお客さまの暮らしを支え、地域社会の発展に貢献することを目的に 2026 年 4 月に R & D センターを設立した。最初に取り組む研究テーマとして、より高品質で安定した通信環境の提供を目指し、次世代無線規格 Wi-Fi 8 の実証実験を 2026 年 6 月より開始した。

#### ■背景と目的

J:COM はこれまで地域に密着した放送・通信事業者として、ケーブルテレビ、インターネット、固定電話、モバイルなど、お客さまの暮らしを支えるサービスを提供してまいりました。



＜2026 年度の取り組み＞



< 2030 年～ 2035 年に実現したいこと >



< 取り組む研究分野 >

近年、AI やクラウドなど、さまざまなデジタル技術の発展により、お客さまのライフスタイルや通信サービスに求める価値も変化しています。当社はこうした変化を成長機会と捉え、暮らしや社会の変化・進化に貢献する企業を目指しています。その実現に向けた事業改革を推進する中で、お客さまや地域社会に貢献できる技術を継続的に創出していくため、R & D センターを設立しました。

## ■ 2026 年度の主な取り組み

R & D センター設立元年である 2026 年度は、暮らしの重要なインフラである通信とそれを支えるネットワークの高機能化を重点テーマとして進めます。具体的には、ネットワークの自律運用や宅内配線の無線化など 4 つの研究・実証に着手し、将来のサービス品質向上と、効率的な運用に繋がる技術の確立を目指します。

## ■ Wi-Fi 8 実証実験を開始

上記取り組みの実現に向けた初期施策として、Wi-Fi 8 の実証実験を 2026 年 6 月より開始します。

宅内の通信環境は、動画視聴をはじめとしたオンラインサービスなど、日常のデジタル体験に影響する重要な基盤です。J:COM では、2025 年 11 月に世界最速規格※ 1 Wi-Fi 7 の提供を開始するなど、お客さま宅内での通信品質向上に取り組んでまいりました。

一方で、宅内における Wi-Fi 利用は、同時接続端末数の増加や多様なオンラインサービスの利用拡大により、今後さらに高度化・複雑化することが見込まれます。こうした環境においても、安定した接続と快適な通信品質を維持できることが重要となっています。

このような状況を踏まえ、Wi-Fi 7 で実現した高速・低遅延通信をベースに、混雑環境下での安定性向上を目指した次世代無線規格として、Wi-Fi 8 が検討されています。そこで、より安定した通信の利用が期待できる Wi-Fi 8 に着目し、将来のサービス提供を見据えた宅内 Wi-Fi 環境における通信品質向上の可能性を検証するため、MediaTek 社と協力し、実証実験を行います。

## < 実証実験概要 >

|          |                                                                                                                                                                                      |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 期間       | 2026 年 6 月～ 2026 年 9 月                                                                                                                                                               |
| 目的       | <ul style="list-style-type: none"> <li>Wi-Fi 8 の特性を検証し、将来の無線通信サービスの品質向上に繋がる具体的な利用場面を明らかにする</li> <li>MediaTek 社と協力し、Wi-Fi 8 の新機能に関する知見を蓄積するとともに、将来のサービス提供に向けた価値創出の可能性を検証する</li> </ul> |
| 検証内容     | お客さまの利用状況を想定し、実験環境を用いて Wi-Fi 8 の特長や効果を発揮する利用場面を確認する                                                                                                                                  |
| 想定する検証環境 | 一般家庭の利用状況を想定した、戸建て住宅および集合住宅に近い環境                                                                                                                                                     |
| 今後の展開    | 実証結果を踏まえ、2028 年以降のサービス提供の可能性を検討する                                                                                                                                                    |

## ■ 将来の目指す姿

通信とネットワークの高機能化を目指すほか、AI やロボティクスなどの研究開発分野を設定し、2030 年から 2035 年までの間に 5 つのテーマに取り組めます。既存のサービスやプラットフォームを軸に、研究・開発した先進的技術を生かし、お客さまの暮らしがより便利になり、地域とのつながりを強化するサービスや仕組みに繋がってまいります。

J:COM R & D センターは、J:COM が 2030 年に目指す姿として掲げる「暮らしのうれしいと地域のゆたかさを進化させるパートナーへ。」の実現に向け、お客さまや地域社会に貢献できる技術を創造し、よりよい未来を拓いていくことを目指します。

## ■ Wi-Fi 8 について

Wi-Fi 8 (IEEE 802.11bn) は、IEEE (米国電気電子学会) において規格化が進められている次世代無線 LAN 規格です。

※ 1 Wi-Fi 通信規格の理論上最大速度比。コース・エリアにより未提供の場合あり。Wi-Fi 7 の機能を利用するには、対応端末が必要。利用環境・利用機器により通信速度が低下する場合あり。

▶ 詳細はこちら <https://www.jcom.co.jp/service/net/wifi7/>

## ■ J:COM のサステナビリティ

J:COM では、事業活動を通じたサステナビリティ経営を推進しています。お客さまの豊かな「暮らし」を支える企業として、持続的な「地域社会」へ貢献を行い、その土台である「地球環境」と関わるすべての「人」を対象として、4 つのマテリアリティと、さらに具体化した 12 のサブマテリアリティを 2023 年度に再設定しました。

## < 本事業と関連するマテリアリティ >

マテリアリティ：「心地よく心を動かすサービスの提供と企業価値の向上」サブマテリアリティ：「お客さまに対する責任」お客さまの生活にかかせない放送・通信などのサービスを安心安全にお使いいただくために、ネットワークの監視から設備の保守まで 24 時間 365 日体制で品質維持に努めています。また、お客さまを第一に考え、高い倫理観と社会的良識をもってパーソナルデータを厳密に管理しています。